令和５年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立原山中学校 ）　　学校番号　２０４　　【様式】

目指す学校像	「通ってよかった、原山中！」と生徒が思える学校

重点目標	１　基礎学力の習得と充実　探究的な学習活動の推進 ２　生徒指導・教育相談体制の充実　迅速な情報共有と、他機関との連携 ３　健康教育の推進　食育の推進 ４　コミュニティ・スクールの推進　各青少年育成会・自治会との連携

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和６年２月２０日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	【学力向上に関する取組】 ＜現状＞ ○全国学力・学習状況調査の質問紙調査や、市学習状況調査の国語・数学の結果とも全国、市平均と比べ高かった。 ○スタディサプリを活用した授業の展開を研究することができた。 ○STEAMS time において 3 年間を見通した系統的な学習の１年目を実施することができた。 ＜課題＞ ①自尊意識や自律的な学習については市平均よりも否定的な回答が多い傾向が見られた。 ②スタディサプリ活用実践を受け個別最適な学びや探究的な学びを展開し、真の学力につなげていく。	・学びの自律化、個別最適化、探究化に向けた授業改善 「生徒が見通しをもって、主体的に学習に取り組むための指導の実践と工夫」 ①基礎学力の習得と充実 ②探究的な学習活動の推進	基礎学力の習得と充実 ・生徒が手帳を活用し、見通しと振り返りの習慣をもたせる研究【自律化】 ・定期テスト時における、生徒の実態に応じた具体性のある計画の作成と実施の指導【個別最適化】	①学校評価項目 1 において、生徒・保護者による A の回答が 5%向上することができたか。 ②学校評価項目 3 において生徒・保護者による A の回答が 5%向上することができたか。 ③市学習状況調査の結果において、生徒のよい変容が見られたか。	①「夢や希望をもって学校生活を送っている」については、生徒２%増、保護者４%増となった。 ②「自分のよさを伸ばそうと努力している」については、生徒 2%増、保護者２%増 ③調査結果が出ていないため、正確な比較はできないが、教師の見取りにおいては、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしているか」や「失敗をおそれないで挑戦しているか」等の評価項目には、おおむねよい変容が見られている。	B	生徒の学びの自律化については概ねよい結果が見られる。学習の個別最適化を図ることで、基礎学力の底上げの具体的な方法を研究していくことが課題である。	
			探究的な学習活動の推進 ・各教科における目標や付けたい力（資質・能力）を見通した探究的な学習活動の指導計画作成と授業の実践 ・STEAMS time の実践の蓄積と振り返り。	①学校評価項目 7・12 において、生徒・保護者による A の回答が 5%向上することができたか。 ②スタディサプリのより効果的な活用方法について研究しその情報を共有することができたか。	①「生き生きとした活動のある教育が感じられる」については、生徒３%増、保護者は変動なしであった。「生徒にわかりやすく、学ぶ喜びを味わえる授業がなされている」については、生徒３%増、保護者２%増であった。 ②スタディサプリの動画や小テスト機能を用い、教科の特質に応じた授業展開を工夫し共有した。	B	アプリケーションを活用したまとめや発表の場面が多くみられるようになった。また、生徒の成果物をホームページで発信することができた。引き続き、探究的な学習活動の実践が行えるよう研究を進めていく。	
2	【安心・安全に関する取組】 ＜現状＞ ○学校施設を安全できれいな環境づくりに努め、学習しやすい環境を保つよう教職員一同工夫を凝らしているが、施設の老朽化が顕著である。 ○校内でのケガの発生は活動時に関するもので施設の瑕疵によるものは１件であった。 ＜課題＞ ○計画的に備品の整理に努めていく。特に、リモートでの動画配信が増えたことがあるので、放送機器など音声面の整備が喫緊の課題である。 ○生徒指導的な関わりだけでなく、教育相談的、特別支援の視点での関わり方など、多様な生徒への支援体制を研究し組織的な支援を行えるようにしていく。	・安心・安全な生活の実現に向けた校内の整備と安全意識の向上	①大規模修繕に向け、長期的な視点で修繕を実施していく。 ②forms を活用した安全点検の確実な実施と素早い情報の共有 ③年度当初の校内巡り、引き渡し訓練実施による避難経路及び引き渡し場所等の確認	①毎学期の管理職による見回りと、教職員からのヒアリングを行い修繕の優先順位をつけているか。 ②毎月 10 日の安全点検の実施を通じて、施設の不具合の早期発見と早期修繕を実施できたか。 ③適切な指導を実施し、防災意識の向上に努めたか。	①定期的な見回りを通じて、校舎壁面、校庭の排水等の修繕を実施した。トイレ等水回りについては、継続して要望を出して行く。 ②安全点検を通じて、外壁コンクリートの劣化が分かり、早期修繕につなげることができた。 ③引き渡し訓練や避難経路確認を行い、生徒による共助訓練を実施し、防災意識の向上に努めた。	A	施設の老朽化は、水回りを中心に顕著である。継続して委員会に要望を上げていく。 教育環境のさらなる充実を図り、備品の整理・整頓を継続して実施することで教育環境の安全性と利便性を高めていきたい。	
		・生徒指導・教育相談体制の充実 ・迅速な情報共有と、他機関との連携	①生徒指導委員会と教育相談委員会での議事・検討の充実を図り、生徒への支援とその見取りを組織的に行う。 ②組織内の迅速な情報共有と、他機関との積極的な連携を継続して行う。	①個に応じた支援を検討し、組織的に指導に当たることができたか。学校評価項目 13 において保護者による A の回答率を 5%向上することができたか。 ②学校評価項目 19 において教職員による A の回答率を 5%向上することができたか。	①生徒指導委員会、教育相談員会の充実を図り、組織的に支援を続けた。「生徒とのふれあいを大切にし、一人ひとりの生徒理解を基盤にした指導がなされている」については、生徒 6%増、保護者２%増となった。 ②「いじめに対して、帽子・早期発見・措置が組織的・具体的に行われている」においては、４%減であった。	B	組織的に支援することで生徒の特性に応じた対応を検討することができた。本年度の動きを基に、さらなる積極的な支援体制を図るとともに、環境整備に努めていく。	
3	【開かれた学校づくりに関する取組】 ＜現状＞ ○地域から好評の「七夕まつり」「クリスマスイルミネーション点灯式」を引き続き実施し、地域との交流を充実させていく。 ＜課題＞ ○学校公開では多くの保護者の来校があった。関心の高さに応えるためにも、引き続き工夫した情報発信に取り組んでいく。 ○引き続き積極的に外部機関を活用し、生徒・家庭への支援を行っていく。 ○感染症対策による学校公開や授業参観の機会が少なかったため、その確保と多様な実施方法を検討していく。	・学校運営協議会を軸とした行事運営の改善	①学校運営協議会のメンバーの見直しと、熟議の充実を図り地域、保護者に信頼される学校づくりを行う。 ②生徒の成長を支える各青少年育成会・自治会・公民館との連携を図り地域の行事に生徒の参加を促す。	①新しく委員を委嘱することができたか。学校運営協議会に生徒が参加することができたか。 ②地域行事の生徒への周知と参加を促すことができたか。	①新しく委員を委嘱することができた。また、第２回、第３回の学校運営協議会に生徒が参加し、日頃の成果を発表した。 ②地域団体と協力して行事の周知を校内で実施し、生徒の参加を促すことができた。	A	学校運営協議会への生徒の参加が行えた。また、地域行事への生徒ボランティア参加も増えた。学校と地域の具体的な課題を協議し、参会される委員との熟議を通じて、地域の課題解決を図っていきたい。	
		・学校 HP、安心メールを活用した情報発信と教育活動参観の機会設定 ・生徒、保護者、地域との協働による新標準服の制定	①学校ホームページを活用した情報発信の頻度を上げ、教育活動の周知に努める。三者面談の回数を増やし、情報共有を密に行う。地域、保護者への授業参観の機会を確保する。 ②生徒会、保護者、地域との話合いを基にした新標準服の制定を行い、令和６年度から移行する。	①ホームページの更新頻度を上げることができたか。学校評価項目 8 において保護者による A の回答率 50%を超えることができたか。 ②新標準服の制定に向けた勉強会の実施と生徒が参加した制服の制定が行えたか。また、その周知を行うことができたか。	①研修を通じて、ホームページの更新頻度を上げることができ、毎週の学年通信の掲載を行っている。「教育活動改善に向けて、保護者、生徒、地域住民の意見等を聴く姿勢がある」については A の回答１９%となった。 ②新標準服の制定の向け、生徒、保護者、業者を交えた勉強会を実施し、制定することができた。また、つぼみの日、新入生保護者説明会、学校ホームページを通じて、その周知を行った。	A	情報発信を積極的に行う体制の構築を図れた。課題としては、次年度も継続的に実施できるよう体制の強化を図ることと、保護者・地域住民の地域人材の活用が課題である。	
4	【教職員の資質向上に関する取組】 ＜現状＞ ○昨年度自主研修の充実が見られた。それにより、生徒への教育活動や校務分掌の充実や有機的な取組が見られるようになった。 ＜課題＞ ①本校の実態に即した研修を効果的に実施し組織の力を向上させるためにも、計画的な研修計画が求められる。 ②履修主義から習得主義の教育課程にしていくため、授業における探究のサイクルについて、組織的に研究する必要がある	・生徒が「通ってよかった原山中」と思える学校づくりに積極的に教師が参画し、「勤務してよかった原山中」と思える学校運営の実施	①これまでの研修履歴に基づく長期的な視点で行う個人研修の実施とその支援を行う。 ②学校課題に即した組織的な研修を実施し教職員の資質向上を図る。 ③ベテラン教員の経験知・実践知の形式化と若手教員への継承を行い、「働いてよかった原山中」という学校文化の醸成を図る。	①人事評価面談において評価履歴に基づく研修計画の立案とその実施、管理職による支援があったか。 ②探究的な学習についての校内研修を実施し、それぞれの授業に生かすことができたか。 ③学校評価項目 25、26 において教職員による A の回答率をどちらも 5%向上することができたか。	①人事評価面談による研修計画の立案とその実施、研修参加の支援を実施した。 ②指導と評価の一体化に向けた校内研修を実施し、評価の工夫改善を行った。 ③「原山中で働けてよかった」については 4%減、「ワークライフバランスが取れた勤務をしている」については 1%増であった。	B	研修の支援体制を整えることができた。年次に応じた研修を実施し、授業改善に生きるよう支援を継続して実施する。 研修の成果を発表する場面を設定し、学校全体の教育活動の向上に努めていくことが課題である。	